

臨終から葬儀まで

カトリック信者の手引き

カトリック碑文谷教会

はじめに

わたしたちは皆、いつか神に呼ばれ、最後の時を迎えます。その大切な時に際しての心の準備と同時に、死の悲しみを超え、復活の希望に基づいたカトリック教会の豊かな葬儀の典礼に関わる知識も必要かと思えます。いざという時、残された家族が戸惑うことがないように基本的な「手引き」を作成いたしました。どうぞ、ご参考になさってください。

1. 臨終から納棺まで

1) 教会への連絡

家族に重篤な方がおられる場合、主任司祭または教会受付（TEL03-3713-7624）にご連絡ください。可能であれば、司祭が病者を訪問し、「ゆるしの秘跡」「病者の塗油」を行い、聖体を授け、主のもとへの旅立ちの準備をいたします。連絡が取れない場合は、知り合いの信者に連絡をしてください。良いパイプ役を果たしてくれるはずですよ。

2) 病院で亡くなられた場合

- ★通常、ご遺体の処置や医師による死亡診断書の作成等があるため、病院から搬出までに2～3時間かかります。まず、教会受付に連絡しましょう。教会が通じない時は直接葬儀社へご連絡ください。その際、「カトリック碑文谷教会に所属する者です。」とおっしゃってください。
- ★ご遺体は葬儀社に依頼して、自宅に帰るか、葬儀社に安置をお願いすることになります。また、病院を出る際、「死亡診断書」は必ず持ち帰りましょう。
- ★葬儀社は病院側が紹介してくれることもありますが、必ずしもキリスト教の葬儀に精通しているとは限りません。できれば教会での葬儀経験もある信頼できる葬儀社の方が良いと思いますので、教会受付または教会の葬儀担当者にご連絡ください。なお、ご遺体搬送を通夜・葬儀と異なる葬儀社にお願いすることも可能です。葬儀社をどうするか、はっきりと病院側に告げることが必要です。

3) 自宅で亡くなられた場合

医師を呼び、死亡診断書を作成していただきます。同時に、教会の受付や葬儀社にも連絡しましょう。

4) 日取りの決定

日程については、ご遺族の希望が尊重されますが、教会の都合、火葬場の都合もありますので、ご遺族、教会、葬儀社の三社での調整が必要です。葬儀社がコーディネーター役を果たしてくれます。

5) 納棺

葬儀の日程などで納棺の日時が決まります。家族だけでなく、司祭、または奉仕者が納棺に立ち会い祈ることもできます。

2. 通夜、葬儀・告別式について

復活の希望のうちに、全てを神にゆだね、神の恵みを受け、故人との別れを告げる大切な儀式です。

1) 通夜

教会で行われることが多いですが自宅で行うこともできます。

2) 葬儀ミサ・告別式

「葬儀・告別式」は教会準備の冊子「葬儀のしおり」に従って行われます。式の中で故人が生前に好んでいた「聖書の箇所」や「聖歌」などを希望することもできます。

3. 葬儀社

祭壇、棺、お花等については、ご遺族が直接、葬儀社とご相談していただきます。葬儀社の選択はご遺族の自由ですが、下記にキリスト教の葬儀に精通している葬儀社を紹介いたします。

東京式典株式会社 東京都目黒区鷹番 3-8-6

0120-094-849 (年中無休 24 時間受付)

電話：03-5724-5560

FAX：03-3714-9636

4. 納骨

- ★納骨の日取りや方法には特に規定はありません。日本の習慣に従って四十九日ころに行われることが多いようです。
- ★司祭にお祈りを依頼する場合は日取りをご相談ください。
- ★当教会の納骨堂に納骨する方は、納骨堂管理委員会にお申し込みになり、担当者と日取りなどについてご相談なさってください。

5. 追悼の祈り

- ★亡くなった人のために祈ることは、人として極めて自然な、大切なことです。日本の習慣では仏教の影響もあり、初七日、一周忌、三回忌等と特別に祈る期日が言われますが、カトリックには特別に決まった期日はありません。日曜日、あるいは平日のミサの中で、司祭に祈っていただくよう依頼することができます。また、個人的に「追悼ミサ」を希望する方は、主日ミサ以外の日に依頼することができます。「追悼ミサ」を行う時は、遺影をお持ちください。
- ★日本の習慣に習い、春分の日、お盆、秋分の日、およびその前後にミサを依頼することも故人を偲び祈る一つの機会といえます。
- ★洗礼を受けずに亡くなられた先祖の方々も、神の前に召されたのですから、その人のために祈ることも大切なことです。
- ★カトリック教会では、死者のための共同体として祈ることも大切にしています。伝統的に11月は「死者の月」として定められており、特に2日を「死者の日」と定め、ミサを捧げ、亡くなった方のために祈っています。

6. 教会への葬儀の献金

通夜、葬儀の謝礼は、それぞれの方の生活に見合った額で、教会へ「献金」していただければ幸いです。献金額は目安として通夜のない場合、10万円（司祭への謝礼を含む）です。その他、教会側の奉仕者への個別の謝礼等は必要ありません。

7. 教会への遺贈

預貯金、不動産等の残された財産について、遺書あるいは家族・親族会議等で相談されることが多いことでしょう。また、生前受けたお恵みをいろいろな形で社会に還元したいとのお考えの方もいると思います。教会の維持修繕や宣教・司牧活動のためにご寄附頂くことも一つの道とお考えくださり、一部でも教会へ遺贈くだされば幸いです。主任司祭にお申し出ください。

8. その他

1) 緊急洗礼

- ★死の危険にある成人は、キリスト教信仰の主要な真理に関してある程度の知識を有し、受洗の意思を何らかの方法で明示した場合に、洗礼を受けることができます。
- ★受洗を望まれる場合、病床に司祭を招いて洗礼を受けることができます。病者はその希望を持っている時は早めに司祭に伝えましょう。
- ★司祭を招く時間がない場合は、どなたでも、また信者でなくとも、洗礼を授けることができます。その場合、次のように、「〇〇さん、私は父と（水を注ぐ）子と（水を注ぐ）聖霊（水を注ぐ）の御名によってあなたに洗礼を授けます」とはっきり声を出して行ってください。授けた後、なるべく早く司祭と教会受付へご連絡ください。

2) 病者の塗油

- ★重い病気になった時、大きな手術を受ける時などに司祭から「病者の塗油」の秘跡を授けていただき、神にいやしを祈り、また神とともに、この十字架を引き受ける心を励ますことができます。そのような状況の際には、司祭にご連絡ください。なお、「病者の塗油」は何回でも受けることができます。同時に「ゆるしの秘跡」も受けられます。なお、ゆるしの秘跡のためには司祭へのお礼は必要ありません。
- ★身体が弱っている時にも「病者の塗油」を受けることができます。

3) 家族の中で自分一人だけが信者の場合

- ★キリストの恵みをあずかることを信じる私たちにとって、死は忌むべきことではなく、地上において信仰を証しする最後の大事な機会です。意識のある間に司祭を呼び、「ゆるしの秘跡」「塗油の秘跡」「聖体の秘跡」を受け帰天する準備をすること、また、帰天に際し、教会共同体として通夜、葬儀ミサを行うことは大変望ましいことです。そのために、周囲の人の助けを必要とします。生前から家族や身近な方々に自分の「臨終の際の手配」や葬儀はカトリック教会で執り行って欲しいと言う希望等についてよく話し、理解を得ておきましょう。
- ★お寺で管理されている家族の墓に納骨する場合には、仏式の葬儀・戒名等の条件をつけられることもあります。それらを受け入れられても差し支えありません。
- ★信徒の家族で未洗者の方の葬儀を教会で行うことも可能です。ご希望の場合は、主任司祭にご相談ください。

キリスト教における死と葬儀

死はいつの時代でも、また誰にとっても悲しいものです。しかし、キリストを信じる人にとって、死は永遠の命の門出であり、復活を信じる者には、悲しみのうちにも、永遠の命への希望の時でもあります。葬儀は地上での関わりが終わったことを公に告知する場です。そこで故人を思い祈るとともに、遺族の悲しみをやわらげ、残された家族をはじめ、共同体、そして関わりがあった人々が一同に集まり、キリストと共に神のうちに生きる、永遠の命への希望のメッセージを受け取る時です。

9. 家族への覚書

家族への覚書は遺言状のような法律的な拘束力はありませんが、家族親戚の方が記載されていることを遺言状のように尊重され、実行していただけることを希望します。

| | |
|-------------------------|-------------------------|
| 氏名 | |
| 生年月日 | 年 月 日 |
| 受洗年月日 | 年 月 日 |
| 受洗教会 | 教会 |
| 洗礼名 | |
| 臨終・死亡時の連絡先 | カトリック碑文谷教会 03-3713-7624 |
| 通夜の場所 | |
| 葬儀の場所 | |
| 埋葬場所 | |
| 家族への希望 | |
| 教会への希望 (好きな聖書の箇所・聖歌) | |
| その他の希望 (花・音楽など) | |
| 署名と記載日 | 年 月 日 |



2022年4月 作成